

# 5. JEEPNEY

**Do you see the area with the brown stone  
paving where the twisted black sculpture is?  
That's where Jeepneys stop.**

**Can you "HEAR" a Jeepney coming?**

「5. JEEPNEY」、ブラックマット カッティング文字、テキストエリアのサイズ：40×20cm

## THE WAY I HEAR / LAKWATSA, Manila 2013

13章の短文テキストと展示会場の窓からの風景、幾つかのオブジェで構成されたテキスト・インスタレーション

「Media/Art Kitchen - Reality Distortion Field, Sensorium」(グループ展)

アヤラ美術館、マニラ、フィリピン、2013.11.8 - 11.24

13章の短文テキストは、展示空間と外を隔てるガラス壁、また2階建てサイズの大きなガラスケース表面に貼られ、それぞれマニラの現在、又は過去のサウンドスケープを物語る。現地でのリスニングと資料リサーチによって書きおこされたテキストは、貼付けられた窓からの眺めやガラスケースの中に置かれた風景の断片としてのオブジェと関連付けられていることで「楽譜」となり鑑賞者に音風景を想像させる。

口語調で書かれたテキストを読み進め、番号順に展示空間内を移動することで、鑑賞者は想像上のマニラに耳を澄ましながら歩き巡る「Lakwatsa」(タガログ語でぶらぶらとする様子の意味)へと誘導される。

「1.INTRODUCTION」から「13.AIRPLANE」はそれぞれ単体でも完結した内容ではあるが、順に追って行くことで時間的なコンポジションは成り立っており、テキストの量、内容の密度の変化によって構成され、鑑賞者が音を想像する行為を目の前の景色から想像上の過去へと飛躍させる為のチューニングのプロセスも担っている。

詳細: [http://www.afewnotes.com/TWIH\\_Manila2013\\_txt\\_jp.html](http://www.afewnotes.com/TWIH_Manila2013_txt_jp.html)



「1. INTRODUCTION」、ブラックグロス カッティング文字、板ガラス、譜面台、楽譜 テキストエリアのサイズ:38×25cm

「4. WALIS TING-TING」、ホワイトマット カッティング文字、ガラスケース内:ココナツの葉の芯で作られたホウキ

#### 4. WALIS TING-TING (原文英語)

美術館の外に出て、しばらく散歩しませんか  
(想像の中で)

私達はマニラのストリートを歩いています、  
何が聴こえますか?

行き交う車の騒音(いつでも聴こえる)  
すれ違うたくさんの人達(これもしょっちゅう)  
工事現場からの音(マニラは変化し続ける)  
その他は? (あなたの番ですよ)

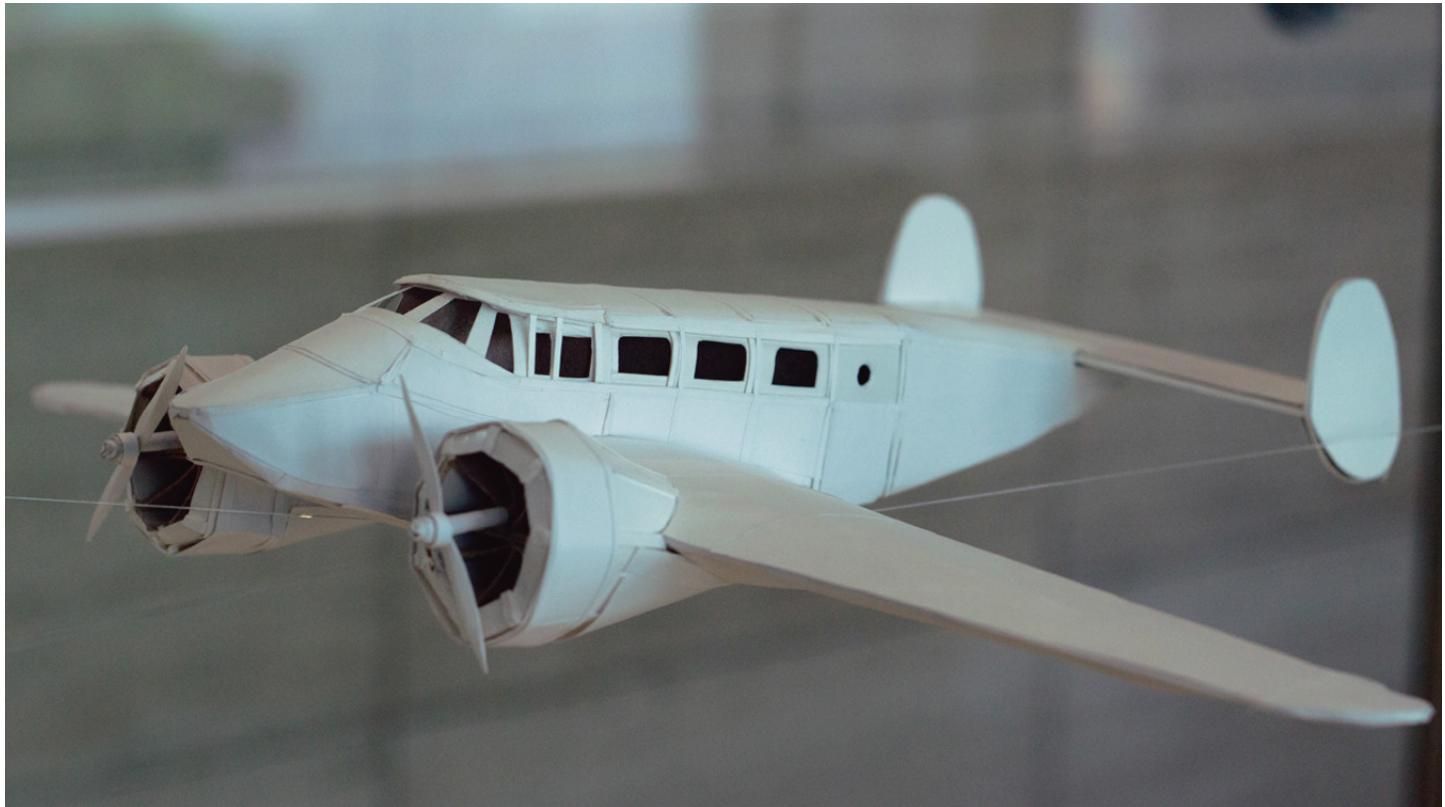
少し向こうで1人の男性が枯れ葉を掃いています。  
(とすると、今はきっと朝ですね)  
その「音」に耳をますます。

注:私はてっきり竹箒だと思ったのですが、実はこのホウキ、  
ココナツの葉の芯でつくった「ワリス ティン・ティン」と呼ばれるものでした。かなり竹箒の音と近い音がします。

さあ、もう少し散歩を続けましょう(実際に)  
右側の階段を下りて進んで下さい、  
他にも紹介したい「音」があるので。(耳をすましつつ)

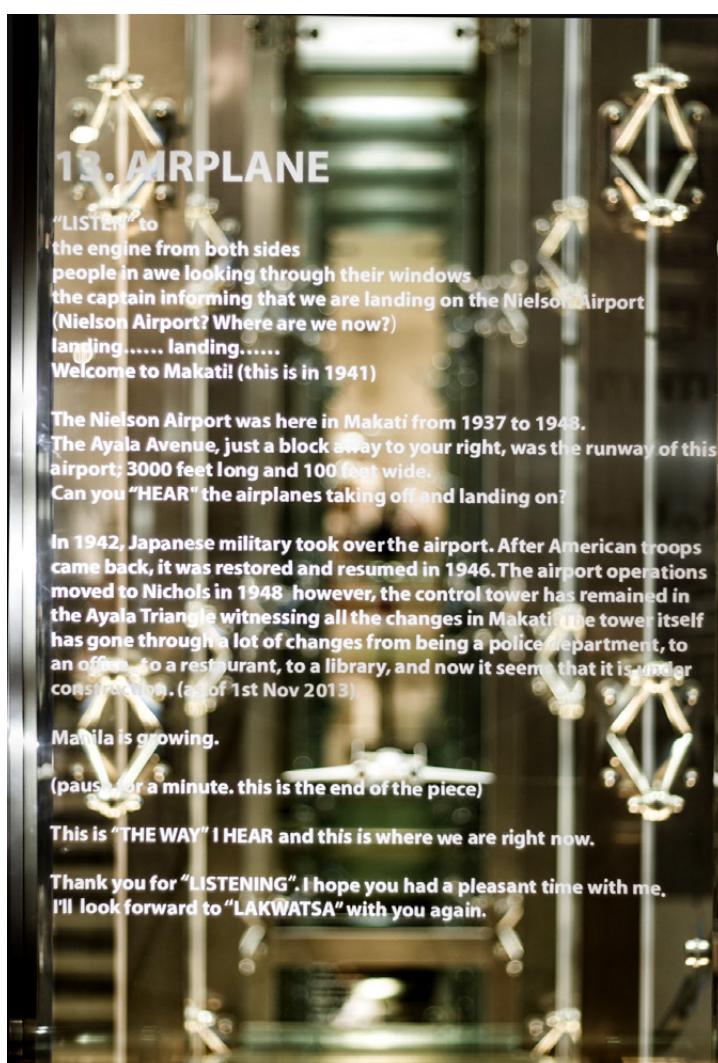


"Mr. Juan' walis ting-ting",木、テープ、ココナツの葉の芯  
サイズ:141×44cm (展示期間中のみ借用)



「Beechcraft Model 18, 1941」制作:Joseph Gabriel、紙、シール紙、木、サイズ:41.5×30.5×6cm

「13.AIRPLANE」、ホワイトマット カッティング文字、ガラスケース内:紙製の飛行機モデル、テグス



### 13. AIRPLANE (原文英語)

両翼からエンジン音

数名の乗客が窓ごしの眺めに感嘆の声をあげる

「ニールソン空港へと着陸します」との機長からのアナウンス  
(ニールソン空港?どこにいるんだろう?)

着陸中…… 着陸中……

「マカティへようこそ!」(これは1941年の事)

ニールソン空港はマカティのまさに今あなたがいるこの辺りに1937から1948まであったのです。ここから1ブロックほど行ったところにあるアヤラ通りは元々3000フィートの長さ、100フィートの幅を持ったその空港の滑走路。

飛行機が離陸し、着陸する音が聴こえませんか?

1942年、日本軍はこの空港を占拠。後にアメリカ軍によって制圧され1946年に再建され、1948年に空港機能をニコルソン空港に移すまで使用された。その後も管制塔の建物だけは、今で言うアヤラトライアングルにそのまま残され、この地の変遷を見守ってきた。見守って来たと言うよりも、管制塔自体が警察署、オフィス、レストラン、図書館と機能を変え、再び現在は工事中である。(2013年11月1日)  
マニラは変化し続ける。

(少し間をおく、これで本作品は終了です)

これが「私の聴き方」。そしてここが私達の立っている場所。

本日はご清聴ありがとうございました。

皆様にこの旅を楽しんで頂けたなら幸いです。

またの機会に再び「Lakwatsa」するのを楽しみにしています。